



2月議会  
一般質問

このままでは学校がもたない

「教員残業代ゼロ制度の廃止、授業にみあった教員定数を」

アメリカいいなりの大軍拡、大企業への  
大減税やめて、子どもの教育に回せと提案



質問する上原安夫市議

上原やすお市議は、25日の2月議会一般質問で、日本共産党が発表した教育政策「このままでは学校がもたない」、「教員残業代ゼロ制度」の廃止、授業にみあった教員定数を「にもとづき、教職員の異常な長時間労働の解決は待たなし」と質問しました。

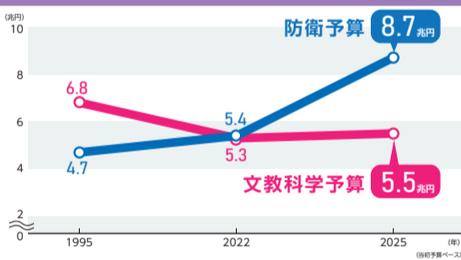
国の調査によれば、小中学校では平日に平均11時間半働き、教員の長時間労働は子どもの成長にとって深刻な問題となっています。こんな働き方で、「精神性疾患による病休者」は、増加の一途をたどり、2023年に7千人を超え、痛ましい過労死もおきています。日本共産党は、学校がもたないという切迫した事態を打開するためには、わずかな給与改善でごまかさうとする政府・与党のやり方でなく、①「教員残業代ゼロ制度」を廃止し、定額働かせ放題を終わらせる。②少なすぎる

教職員を計画的にふやし、長時間労働を根本的に解決する。本当の改革に進むため、国民的なたたかいをよびかけています。やすお市議は、以前は教育予算より少なかった防衛予算を倍にまで膨張させている自公政治を批判、アメリカいいなりの大軍拡、大企業への大減税やめて、国民のくらし、教育に回せと主張しました。

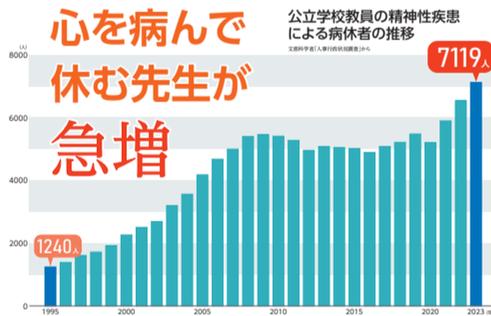
那覇市の勤務と残業時間（やすお市議への答弁より）

教員の平均勤務時間		教員の残業時間（月）
小学校教員	9時間 15分	31時間 10分
中学校教員	9時間 33分	38時間 21分

大軍拡より教育に予算を



心を病んで  
休む先生が  
急増



子どもの貧困問題解決へ やすお市議が赤ちゃん応援ギフトを提案



経済的に困難な状況にある子育て世帯の調査から

- ①約半数が紙おむつを買えない その内、7割がおむつを替える回数を少なくした
- ②約4割が粉ミルクを買えない その内、4割がミルクを薄めて飲ました

やすお市議は、国際 NGO セーブ・ザ・チルドレンが行った経済的に困難な状況にある子育て世帯の実態調査を質問、紙おむつやミルクを買えない等、深刻な生活実態調査を明かにし、ひとり親や妊産婦へ紙おむつやミルクを赤ちゃんギフトにして支援することが求められていると提案、市は財源確保も含めて調査研究していくと答弁しました。

誕生した赤ちゃんとその保護者の方へ、「からつつ子応援ギフト」を配布しています。ママバッグの中には、子育てに役立つアイテムがたくさん入ってます（佐賀県唐津市より）